

幼稚園での預かり保育は モデル園で平成26年度に試行

米澤修司 議員(民主党)

園公立幼稚園の園児数は、昨年度比40数人減少している。保育所(園)は定員を増やしても年度途中には待機児童が発生する。幼稚園での預かり保育の拡充は、

市長 子育て支援を重点課題として積極的な施策展開に努めている。平成26年度は、幼稚園のモデル園において預かり保育の拡充が試行できる。園電力料金の値上げの影響は、この夏の節電対策は、

総務部長 市庁舎の電気料金値上げの影響は、昨年度比13%増を見込んでいる。空調温度を28度に設定や、不要な照明やパソコン等の消灯を徹底するなど、節電に努める。

園1000時間を越える超過勤務は異常だ。長時間の超勤解消に向けた具体的な取り組みは、

総務部長 24年度は1000時間を越える超過はなくなった。900時間台が3人、800時間台が4人、700

時間台が7人である。25年度は超勤の多い部署の増員、ノード残業の徹底、超勤の多い職員への指導など部長を中心に組織的な対応を進める。

園ごみの広域処理への参入は、

経済環境部長 園ごみ焼却施設の広域化は廃棄物処理、リサイクル処理における合理性・経済性及びエネルギー回収の推進等からも有効とされている。本市の後継施設については単独処理を基本としながらも、広域化に向けての課題整理を行っている。



フィールドアスレチックで元気に遊ぶ園児 (新幼稚園の活動から)

園し尿処理施設「緑泉園」

経済環境部長 緑泉園については21年度に第一次コンバクト化を実施し、し尿・浄化槽汚泥を、前処理・希釈を行って下水道に直接投入している。現時点においては洛南浄化センターでの受け入れ施設の整備を求める考えはない。

園し尿処理施設「緑泉園」

同大とのさらなる協働は 職員派遣含め連携強化

岡本茂樹 議員(一新会)

岡同志社大学との協働による街づくりについて(京田辺校地関連の平成25年度の学生数は、①学生数減少による具体的な悪影響は、②大学当局とのこの2年間の協議状況は、



市民と協働で行われている同志社大学スポーツ健康科学部の授業

④今後の積極的連携は、

市長 同志社大学生約7900人、大学院生1100人、同志社女子大学生(院生含む)4100人、国際中高生約11000人、合計約1万4200人。女子大に新たに看護学部も創設。市長と学長による懇談会、職員同士の

⑤企業政策部長

園が15年に行政代執行した大住地内「放置硫酸ピッチ

撤去」後の管理状況について

⑦本事件の概要と、その後の管理状況は、⑧周辺、道路、側溝の管理状況は、⑨15年12月に京都府が行政代執行を実施放置されていた硫酸ピッチ及びスラッジはすべて撤去。現在空地で良好に管理。⑩周辺側溝の疎通に支障があれば浚せつ等を実施する。⑪園で予想される大災害の認識は、⑫自主防災組織の立ち上げ状況と未設置地域への働きかけは、⑬危機管理監

前立腺がん検診の実施を 平成26年度実施の方向で準備

櫻井立志 議員(公明党)

園胃がん予防に効果のあるピロリ菌検査を胃がん検診の項目に入れ、検査費用の助成をする考えは、

健康福祉部長 国のガイド



市のがん検診用パンフレット

ラインでは、行政が行う検診として推奨はされていないが、今後検討される見込みとなつているので、その動向を十分に注視したい。

園府下の大半が実施している前立腺がん検診の早期実施を求めるが、市の考えは、健康福祉部長 現在進める受診率向上の取り組みの中で、

園市立図書館の雑誌購入費の軽減を図るため、スポンサー制度を導入しては、教育部長 新たな財源確保や図書館資料の充実を図る上で有

幼な制度である。導入自治体の調査を行い、図書館協議会において審議していきたい。

園三山木駅前自転車レンタル事業を実施する考えは、建設部長 自転車駐車場の多様な利用形態の中で、検討していききたい。

幼稚園通園時の安全対策を 地元の声を十分聞きたい

小林喜代司 議員(自民・新栄会)



安全対策が望まれている府道八幡木津線 (馬坂川水路橋)

園府道八幡木津線の交通安全対策として、新築一休寺道からJR同志社前駅間は、

園府は平成27年度の山手幹線全面供用に向け取り組んでいる。大型車の交通規制についても茶屋前交差点の改良が先決である。府では茶屋前交差点の改良にむけた設計が進められており、25年度に改めて地元説明会を実施すると聞いている。

園基本的には大規模改修工事の際に、トイレの整備もあわせて実施している。草内小学校のトイレは相当旧式で低学年児童には使用しづらい面もあり、大規模改修を待たずに便器だけでも改修できないうちに検討し、できる限り早く改修にむけて事務を進めたい。